

省エネルギー事業成果の紹介



NEDOとは

- NEDOは、持続可能な社会の実現に必要な研究開発の推進を通じて、イノベーションを創出する、国立研究開発法人です。
- リスクが高い革新的な技術の開発や実証を行い、成果の社会実装を促進する「イノベーション・アクセラレーター」として、社会課題の解決を目指します。

NEDOのミッション

エネルギー・地球環境問題の解決

新エネルギーおよび省エネルギー技術の開発と実証試験等を積極的に展開し、新エネルギーの利用拡大とさらなる省エネルギーを推進します。さらに、国内事業で得られた知見を基に、海外における技術の実証等を推進し、エネルギーの安定供給と地球環境問題の解決に貢献します。

産業技術力の強化

産業技術力の強化を目指し、将来の産業において核となる技術シーズの発掘、産業競争力の基盤となる中長期的プロジェクトの実施および実用化開発における各段階の技術開発に取り組みます。その際、産学官の英知を結集して高度なマネジメント能力を発揮することで、新技術の市場化を図ります。

～ 第5期中長期計画に基づく3つの取り組み ～

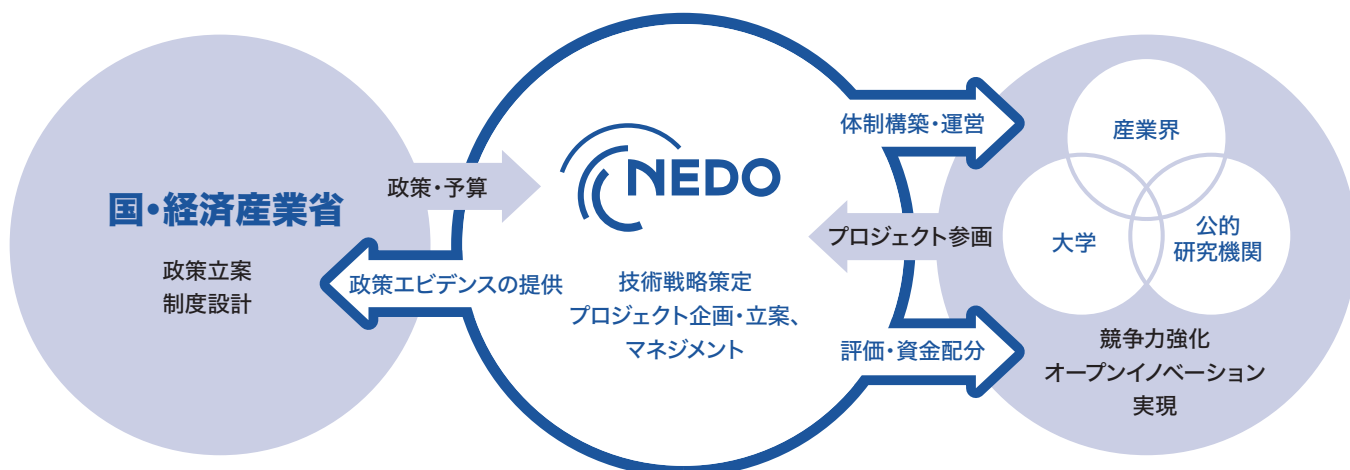
研究開発マネジメントを通じた
イノベーション創出

研究開発型スタートアップの
育成

技術インテリジェンスの
強化・蓄積

イノベーション・アクセラレーターとしてのNEDOの役割

技術戦略の策定、プロジェクトの企画・立案を行い、プロジェクトマネジメントとして、産学官の強みを結集した体制構築や運営、評価、資金配分等を通じて技術開発を推進し、成果の社会実装を促進することで、社会課題の解決を目指します。



CONTENTS

■P4

コグニティブ超低電力光インターフェースの開発

事業名 戦略的省エネルギー技術革新プログラム
助成先名 NTTインベティブデバイス(株)
実施期間 2017年度～2019年度(実証開発)

シリフォト32G光送受信器の開発

事業名 戦略的省エネルギー技術革新プログラム
助成先名 アイオーコア(株)
実施期間 2018年～2020年(実用化開発)

加熱炉の排気熱循環システムの開発

事業名 戦略的省エネルギー技術革新プログラム
助成先名 パナソニック(株)
実施期間 2014年度～2015年度(実用化開発)

■P5

モデルベース設計手法による

自動運転向けLSIの低電力化技術の開発

事業名 戦略的省エネルギー技術革新プログラム
助成先名 ルネサスエレクトロニクス(株)
実施期間 2019年度～2020年度(実証開発)

次世代自動車搭載用途の

角度センサインターフェースICの開発

事業名 戦略的省エネルギー技術革新プログラム
助成先名 多摩川精機(株)
実施期間 2018年度～2021年度(実用化開発)

省エネルギー型ナノセルロースの製造プロセスの開発

事業名 戦略的省エネルギー技術革新プログラム
助成先名 大王製紙(株)
実施期間 2015年度～2017年度(実用化開発)

■P6

フッ素樹脂と金属の

新たな高強度直接接合技術を開発

事業名 戦略的エネルギー技術革新プログラム
テーマ名 土砂等貨物の運搬効率を飛躍的に向上させるフッ素樹脂と金属板の直接接合技術によるダンプカー等荷台設置部材の開発
実施者 (株)ヒロテック
実施期間 2019～2021年度

占積率90%以上を達成した

モーター用アスターコイルのアルミニウム化に成功

事業名 戦略的エネルギー技術革新プログラム
テーマ名 アルミニウムを用いたアスターコイルの製造プロセス及び軽量モータの開発
実施者 (株)アスター
実施期間 2019～2021年度

■P7

アンモニアを燃料とした

脱炭素次世代高性能工業炉の基礎研究

事業名 未利用熱エネルギーの革新的活用技術研究開発
テーマ名 アンモニアを燃料とした脱炭素次世代高性能工業炉の基礎研究
実施者 北海道大学、ロザイ工業(株)、三建産業(株)、東北大学、広島大学
実施期間 2021～2022年度

世界最細、直径15マイクロメートルの

超極細MgB₂超電導線の開発

事業名 エネルギー・環境新技術先導研究プログラム
テーマ名 超極細MgB₂超電導線の研究開発
実施者 (国研)物質・材料研究機構、日本超電導応用開発(株)
実施期間 2022年度

■P8

ファイバーレス断熱材と周辺部材の開発で

産業/工業炉の省エネルギー化

事業名 未利用熱エネルギーの革新的活用技術研究開発
実施者 未利用熱エネルギー革新的活用技術研究組合(TherMAT)、美濃窯業(株)
実施期間 2015～2022年度

次世代パワー半導体600V

耐圧 α -Ga₂O₃ダイオードの開発

事業名 戦略的省エネルギー技術革新プログラム
テーマ名 コランダム構造酸化ガリウム α -Ga₂O₃を用いた600V耐圧SBDの開発
実施者 (株)FLOSFIA
実施期間 2016～2019年度

■P9

クリーンなエネルギーを地産地消する

水素発電システムを開発

企業名 アルハイテック株式会社
取材日 2022年8月

■P10

工場に眠る未利用熱のさらなる有効活用へ

一重効用ダブルリフト吸収冷凍機の実用化

企業名 日立ジョンソンコントロールズ空調株式会社
取材日 2021年10月

■P11

脱炭素社会実現に向けた

省エネルギー技術の研究開発・社会実装促進プログラム

コグニティブ超低電力光インターフェースの開発

事業名：戦略的省エネルギー技術革新プログラム

助成先名：NTTインベティブデバイス(株)

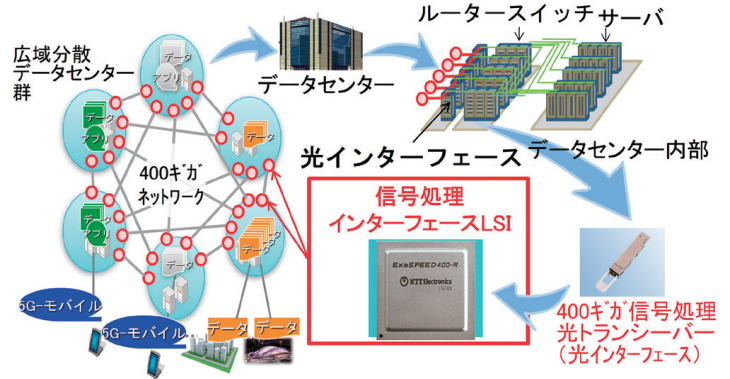
実施期間：2017年度～2019年度(実証開発)

お問い合わせ先：<https://www.ntt-innovative-devices.com/form/all/inquiry/form/electronics/ja/>

製品情報：<https://www.ntt-innovative-devices.com/product/photonics/exaspeed-400-r.html>



400Gbpsの高速動作(約3本の映画を1秒で伝送)を可能とする超低電力光インターフェースを実現するために、最先端(開発時)7nm微細化半導体製造プロセスによる信号処理インターフェースLSIを開発し、消費電力を従来技術の1/10に削減しました。コヒーレントQSFP56-DDプラグブルトランシーバの低電力動作と伝送距離の拡大を実現し、データセンターのエコシステム構築に貢献する製品です。



シリフォト32G光送受信器の開発

事業名：戦略的省エネルギー技術革新プログラム

助成先名：アイオーコア(株)

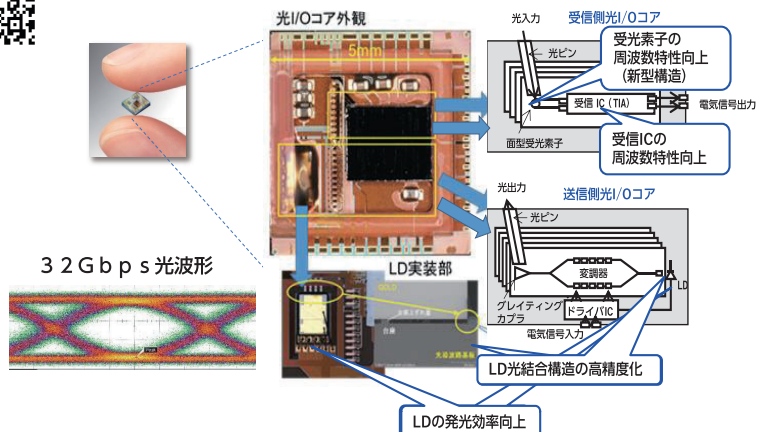
実施期間：2018年度～2020年度(実用化開発)

お問い合わせ先：03-6265-3956

<https://www.aiocore.com/contact>



次世代サーバー間/内の光インターコネクションに向けたシリフォト32Gbps光送受信器の開発を行いました。受信ICおよび受光素子の広帯域化に加え、送信側LD発光効率を向上させたことで、従来の25Gbpsから32Gbpsへ通信速度を上げた場合でも約30%の省電力化を図ることが可能です。今後PCIe-Gen5を使用した光配線の開発を検討されているお客様に対しサンプル提供致します。



加熱炉の排気熱循環システムの開発

事業名：戦略的省エネルギー技術革新プログラム

助成先名：パナソニック(株)

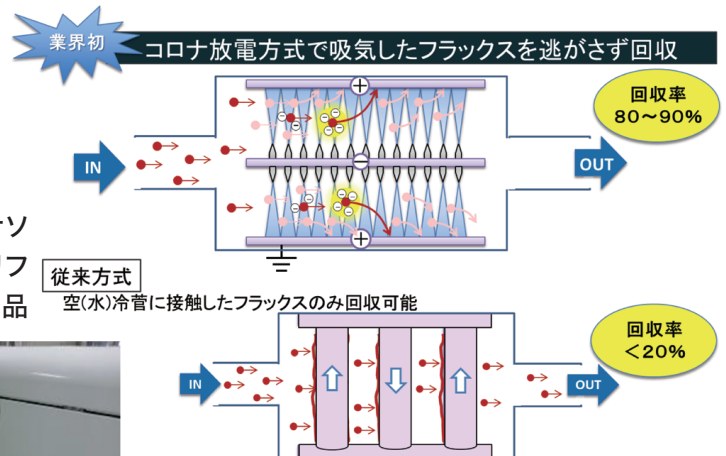
実施期間：2014年度～2015年度(実用化開発)

お問い合わせ先：黒木一彦 080-9948-3382

kuroki.kazuhiko@jp.panasonic.com



「加熱炉の排気熱循環システムの開発」の成果を基にパナソニック プロダクションエンジニアリング(株)で引継ぎ、リフロー炉向けフラックス回収装置として販売しています。本製品を導入することで、フラックス回収効率が、従来に比べ、5～10倍に向上するので電子基板へのフラックス再付着を抑制するとともに、リフロー炉の清掃周期延長に効果を発揮します。

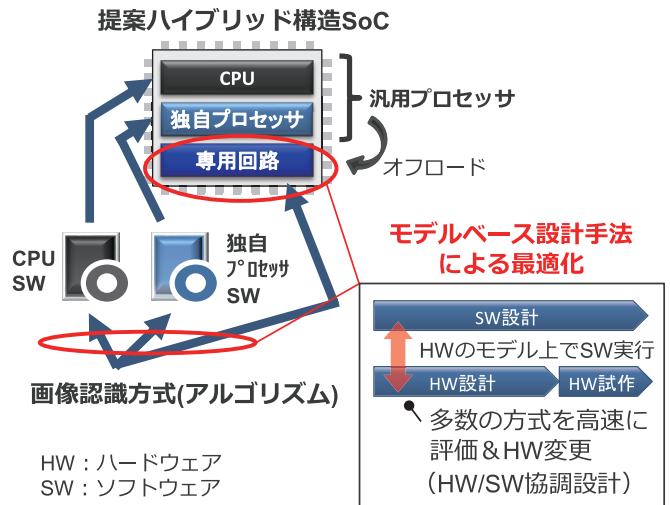


モデルベース設計手法による自動運转向けLSIの低電力化技術の開発

事業名：戦略的省エネルギー技術革新プログラム
 助成先名：ルネサスエレクトロニクス(株)
 実施期間：2019年度～2020年度(実証開発)
 お問い合わせ先：042-320-7300(武蔵事業所)
<https://www.renesas.com/jp/ja>



自動運转向け画像認識を、「汎用プロセッサ+専用回路」のハイブリッド構造にて処理し、より多くの処理を低消費電力の専用回路で実行できるように、モデルベース設計手法を活用して専用回路の仕様を最適化することで、低消費電力の自動運転制御を実現した。2025年以降、開発品を市場導入予定であり、自動運転制御に要する消費電力を1/3未満に削減する省エネ効果を見込む。

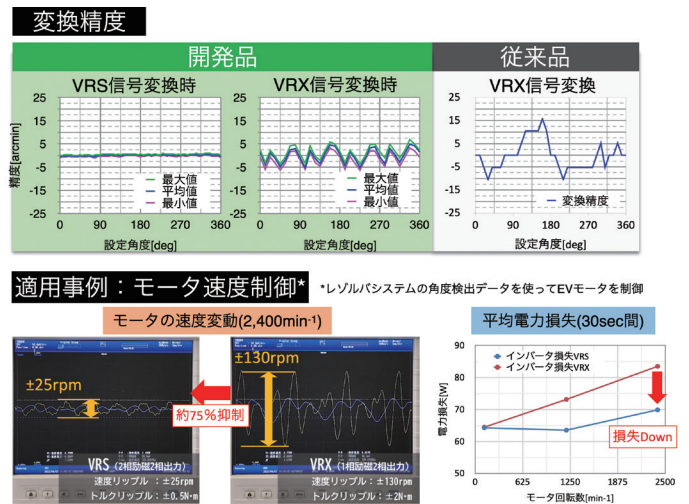


次世代自動車搭載用途の角度センサインターフェースICの開発

事業名：戦略的省エネルギー技術革新プログラム
 助成先名：多摩川精機(株)
 実施期間：2018年度～2021年度(実用化開発)
 お問い合わせ先：0265-56-5433
<https://www.tamagawa-seiki.co.jp/contact/ema>



高精度なVRSレゾルバ(2相励磁/2相出力)の車載適用を可能にするレゾルバ/デジタル変換ICを開発し、機能拡張にて全方式のレゾルバ信号への対応化も実現しました。VRSレゾルバと組合せることで、VRXレゾルバ(1相励磁/2相出力)を用いたレゾルバシステムに比べ角度センサ起因の速度検出誤差を約75%抑制し、モータ制御の高効率化による省エネルギー化に貢献します。モーション制御の高度化を検討されている方へのサンプルの提供が可能です。



省エネルギー型ナノセルロースの製造プロセスの開発

事業名：戦略的省エネルギー技術革新プログラム
 助成先名：大王製紙(株)
 実施期間：2015年度～2017年度(実用化開発)
 お問い合わせ先：0896-23-9491
ellex@daiogroup.com
<https://www.daio-paper.co.jp/development/cnf/>



セルロースナノファイバー(CNF)の機械的製法プロセスを開発し、従来の方法より大幅なエネルギー削減を達成しました。本製法を用いて、CNF素材を製造することで、エネルギーが従来の97%削減でき、CO₂削減、コスト削減に貢献します。当社では、CNF素材として水分散液、乾燥体、成形体、さらには、複合樹脂の形態への展開、供給を進めています。CNFの活用をご検討されている方、ぜひご連絡をお願いします。

CO₂削減、コスト削減を目的にCNF省エネ製造プロセスを開発

バルブ, 前処理バルブ, 溶解バルブ, ナノセルロース

様々なユーザーニーズに対応するためにCNFのラインナップを拡充

ELLEX-S, ELLEX-M, ELLEX-P, ELLEX-☆, ELLEX-R67

具体的な実用化事例

トイレクリーナー「クレキラ!」(当社)

レースカー (SAMURAI SPEED)

観光ツアーバス「プレミアムバス」(道後プリンスホテルグループ)

卓球ラケット (藤田マス)

スキー・スノーボードワックス (チームレスキュー合同会社)

コンクリートへの配合 (当社グループ建設)

「レゾルバCNF」, 「製紙CNF」

フッ素樹脂と金属の新たな高強度直接接合技術を開発

事業名：戦略的エネルギー技術革新プログラム
 テーマ名：土砂等貨物の運搬効率を飛躍的に向上させるフッ素樹脂と金属板の直接接合技術によるダンプカー等荷台設置部材の開発
 実施者：(株)ヒロテック
 実施期間：2019年度～2021年度



目的

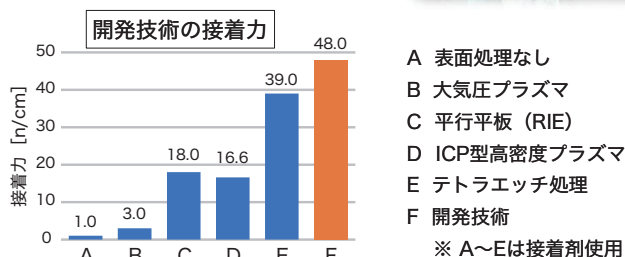
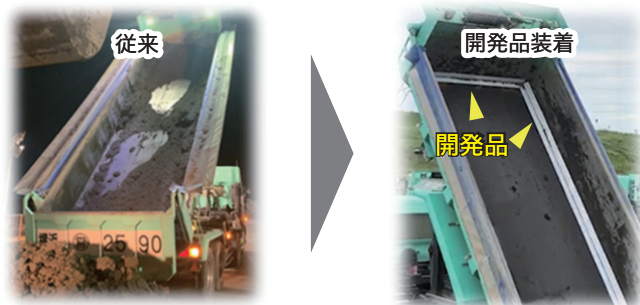
土木建築業界では、ダンプカー荷台への土砂付着による運搬効率悪化という問題を抱えています。このことは過剰な燃料消費や荷台清掃時の転落事故の要因となっています。そこで、高い滑り性を有するフッ素樹脂に着目し、レーザーを活用した異種材料接合による問題解決を考えました。

成果

フッ素樹脂とステンレス鋼板について、レーザーを用いた新たな表面処理と直接接合技術を開発しました。本技術を活用した製品をダンプカー荷台に設置することで土砂の付着防止を可能にし、年間延べ6百万台分の過剰な稼働を防止でき、従来比10%の使用燃料削減が可能になります。また、荷台清掃時の転落事故などのリスクを低減することができます。

今後の展望

今後も営業体制の強化と取付け拠点の整備を進め、より多くのダンプ事業者に活用いただくことで運搬効率の向上による省エネルギー効果の拡大を図ります。また、本技術の他用途への活用として、豪雪地域での堆雪運搬用ダンプカーへの設置や同地域に向けた屋根材への適用など、同技術の適用範囲拡大に向けた取り組みを重ねます。



占積率90%以上を達成したモーター用アスターコイルのアルミニウム化に成功

事業名：戦略的エネルギー技術革新プログラム
 テーマ名：アルミニウムを用いたアスターコイルの製造プロセス及び軽量モータの開発
 実施者：(株)アスター
 実施期間：2019年度～2021年度

目的

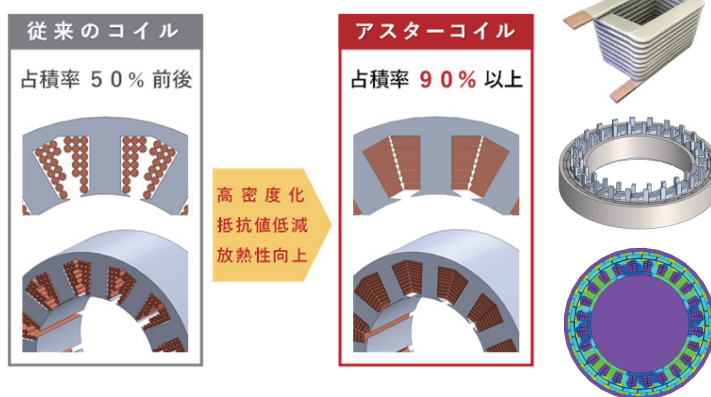
世界の消費電力の約60%はモーターによって消費されています。当社は過去のNEDO事業で確立したアスターコイル (ASTERCOIL®) によりモーターの性能を飛躍的に向上させることで、各種経済活動におけるエネルギー消費量を低減させるほか、コイルのアルミ化によりモーターの軽量化を果たしつつ、ビジネスの持続可能性を高めます。

成果

アルミアスターコイルの生産効率向上のための諸条件を見つけ出すと同時に、不良率を抑制する品質管理手法を構築することで、量産プロセスを確立しました。また、アスターコイルを搭載したモーターの高精度なシミュレーションモデルを構築し、一般的な巻線コイルのモーターに比べて効率を5pt改善した軽量モーターを設計することができました。

今後の展望

アルミアスターコイルはその応用範囲が広く、モビリティ分野やエネルギー分野での活用が期待されています。小型・軽量で高出力密度なモーターは、EVへの搭載を目指して各メーカーと共同開発を進めています。また、IP67まで防塵防水性能を高めたモーターは、ドローン用として導入が進んでいます。さらに、発電機としての応用も注目されており、再生エネルギー事業へ貢献してまいります。



アンモニアを燃料とした脱炭素次世代高性能工業炉の基礎研究

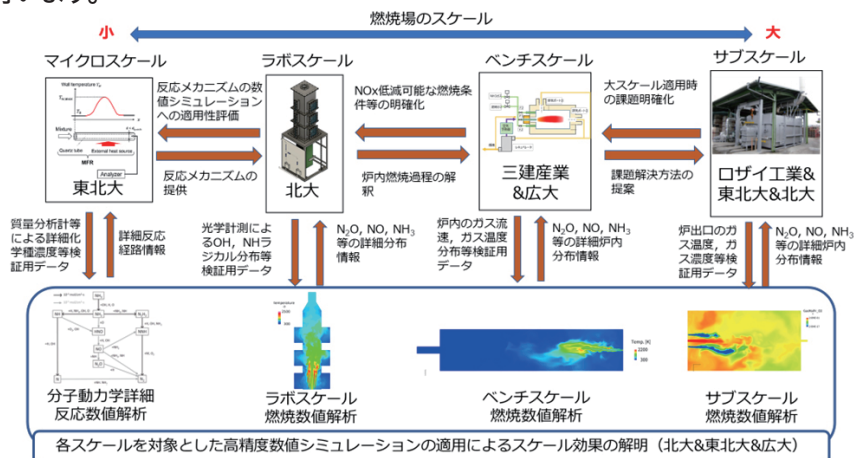
事業名：未利用熱エネルギーの革新的活用技術研究開発
テーマ名：アンモニアを燃料とした脱炭素次世代高性能工業炉の基礎研究
実施者：北海道大学、ロザイ工業(株)、三建産業(株)、東北大学、広島大学
実施期間：2021年度～2022年度

目的

本研究では、工業炉においてアンモニアを30%程度まで混合した燃料を用いて高温空気燃焼を行った場合における燃焼過程を解明し、燃焼時に発生するNO及びN₂Oを同時に低減できる技術確立を目的としています。また、工業炉で加熱する対象物(被加熱物)への影響についても評価を行います。

成果

各機関でマイクロスケール(小規模バーナー)からサブスケール(小規模な実用炉レベル)までの各種サイズの炉での燃焼実験や、燃焼火炎、燃焼生成物の分析等を分担し、情報を共有して解析することでNOやN₂Oを低減するための指針が明らかになりました。また、アンモニア混焼雰囲気下における被加熱物への影響も明らかになりつつあります。



今後の展望

アンモニア燃焼雰囲気が被加熱物に与える影響について、さらに詳細な調査を継続実施します。この結果と、本研究により得られた燃焼指針をもとに、実用炉の用途に応じた燃焼制御技術の確立を行うことで、アンモニア燃焼時においても従来燃料を用いた場合と同等の生産品質を実現します。

世界最細、直径15マイクロメートルの超極細MgB₂超電導線の開発

事業名：エネルギー・環境新技術先導研究プログラム
テーマ名：超極細MgB₂超電導線の研究開発
実施者：(国研)物質・材料研究機構、日本超電導応用開発(株)
実施期間：2022年度



目的

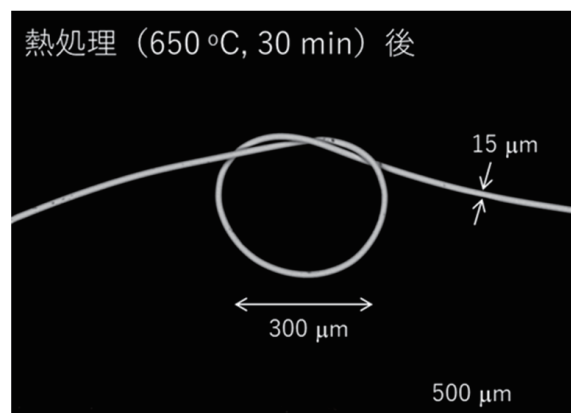
脱炭素社会の実現に貢献する液体水素を利用した電動航空機や超電導発電機などでは、小型で大出力を可能とする超電導モーターが不可欠で、コイル密巻きが容易な優れた可とう性と、極めて小さい交流損失の両方を満足する革新的な超電導線材が求められています。

成果

最先端の極細伸線加工技術を活用し、世界最細となる直径15マイクロメートルの超極細MgB₂超電導線を開発しました。臨界温度が約34ケルビン(K)でゼロ抵抗を示します。化合物超電導線は一般的に脆く壊れやすいものですが、今回開発した超極細MgB₂超電導線は、熱処理後に直径で約300マイクロメートル程度の結び目を作るほどフレキシブルで、大きな特性劣化もありません(右図)。

今後の展望

今後、さらなる極細化を追求するとともに、キロメートル級の長尺化や一層の特性改善などにも取り組み、さらに多数本の超極細MgB₂超電導線を束ねて集合化したフレキシブルな大電流容量ケーブルの開発を進めます。これにより、超電導モーターなどの開発を加速させ、液体水素を利用した電動航空機や超電導発電機など超電導応用機器の実用化を実現して、温室効果ガスの排出量削減に貢献します。



ファイバーレス断熱材と周辺部材の開発で産業/工業炉の省エネルギー化

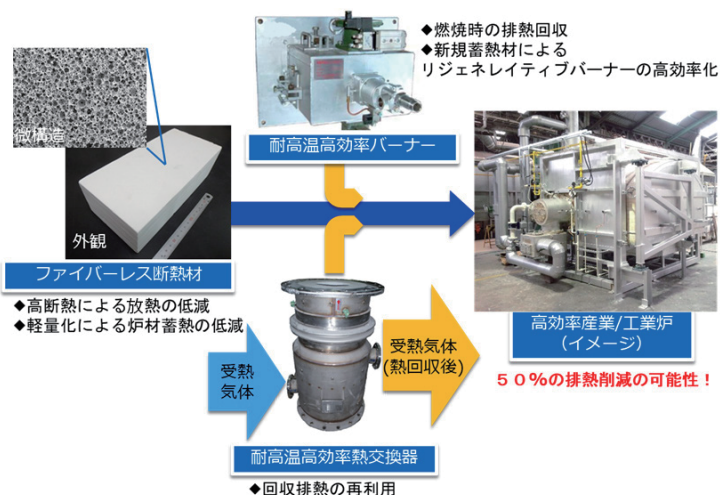
事業名：未利用熱エネルギーの革新的活用技術研究開発
テーマ名：高強度高断熱性多孔質セラミックスを用いた省エネルギー炉の研究開発
実施者：未利用熱エネルギー革新的活用技術研究組合(TherMAT)、美濃窯業(株)
実施期間：2015年度～2022年度

目的

操業中の産業/工業炉において炉外への放熱量や炉材への蓄熱量を削減する「ファイバーレス断熱材」、高温排気ガスから熱を回収する「耐高温高効率熱交換器」、新規蓄熱体を用いた「耐高温高効率バーナー」を開発し、省エネルギー化を目指します。

成果

- ・最高使用温度1,500°C、圧縮強度15MPa以上、熱伝導率0.2W/m・Kを有するファイバーレス断熱材を開発
- ・ファイバーレス断熱材を施工した小型ガス炉での加熱テストの結果、約36%の燃料使用量削減を達成(当社比)
- ・蓄熱体を新規開発し、既存の蓄熱材料の2倍の入熱放熱速度を達成し、バーナーの燃焼効率が向上
- ・熱交換器の1,500°Cの性能試験において従来品の約3倍となる熱交換効率20%以上を達成
- ・1,300°C対応の高効率熱交換器を2015年より販売開始



今後の展望

最初のターゲットとしている窯業・土石分野だけでなく、より大きな排熱量を占める鉄鋼分野(国内総排熱量の約8%)へ応用展開することで、さらなる排熱削減効果が期待されます。また、開発中の断熱材について様々な用途の工業炉で実証テストを進めており、実用化に向けたデータ収集を進めています。

次世代パワー半導体600V 耐圧 α -Ga₂O₃ダイオードの開発

事業名：戦略的省エネルギー技術革新プログラム
テーマ名：コランダム構造酸化ガリウム α -Ga₂O₃を用いた600V耐圧SBDの開発
実施者：(株)FLOSFIA
実施期間：2016年度～2019年度

目的

(株)FLOSFIAでは、「半導体エコロジー®」の実現に挑戦しています。その実現による持続可能な社会を創るために、次世代パワー半導体として期待されているコランダム構造酸化ガリウムを用いた低オン電圧化ショットキーバリアダイオードの開発に取り組みました。

成果

ショットキーバリアダイオード(SBD)量産化に向けた技術課題であった、
・プロセス開発 ・デバイス構造最適化 ・実装方法確立 ・信頼性確立
等について、本助成事業を活用して、コランダム構造酸化ガリウム600V耐圧SBDの開発に成功しました。

今後の展望

(株)FLOSFIAは、比較的小容量の電源を想定したSBD量産を開始した後、さらに大容量の電源やインバーターに向けた開発および量産を進めていきます。そして、SBDの次の製品として、電界効果トランジスタ(MOSFET)やパワーモジュール等の事業化も推し進めていく予定です。



写真) コランダム構造酸化ガリウム 600V耐圧
ショットキーバリアダイオード(Ga₂O₃-SBD)

クリーンなエネルギーを地産地消する水素発電システムを開発

企業名：アルハイテック株式会社

取材日：2022年8月



目的

環境問題対策

戦略的省エネルギー技術革新プログラム／アルミ廃棄物からの有用資源回収による省エネルギーシステムの開発

概要

「アルミ付き包装容器の処理に困っているのでも何とかしてほしい」――

このひと言からアルハイテック代表取締役社長の水木伸明さんの挑戦は始まりました。

紙パック飲料や錠剤シートなどに使用されるアルミニウム(アルミ箔)は、薄くてリサイクル回収が困難とされていますが、環境への配慮から有効活用が求められていました。もともと、運送会社で環境に関連する事業を担当していた水木さんに、取引先がアルミ系廃棄物の処分方法を相談してきたことをきっかけに取り組みがスタート。

アルミ系廃棄物から高純度なアルミを回収して水素を生成し、燃料電池で発電する一体型のシステムの開発を進めました。その社会実装に向けて、NEDOの「戦略的省エネルギー技術革新プログラム」(2014～2016年度)を活用してアルミを分離回収する乾留炉と水素製造装置を開発しました。

さらに、同事業でアルミ系廃棄物からの水素発電検証プラントを完成・稼働させ、1時間あたり約5kgの水素(燃料電池自動車が約900km走行可能な分量)を製造することに成功しました。

2022年度には温浴施設に本システムを導入すべく、NEDOの「研究開発型スタートアップ支援事業」で水素製造プラントの開発を行っています。

省エネルギーで持続可能な水素エネルギー社会への貢献を目標に掲げ、アルハイテックの挑戦は続きます。



工場に眠る未利用熱のさらなる有効活用へー重効用ダブルリフト吸収冷凍機の実用化

企業名：日立ジョンソンコントロールズ空調株式会社
取材日：2021年10月



目的

省エネルギー

未利用熱エネルギーの革新的活用技術研究開発

概要

私たちはエネルギーを、動力、電力、熱、光などに変換して利用しています。
一方で、変換過程で利用されないまま廃熱として放出されるエネルギーもあります。

国内で消費される一次エネルギーの約6割が未利用のまま捨てられるため、
この未利用熱エネルギーを有効活用するための技術開発が進んでいます。

日立ジョンソンコントロールズ空調株式会社は、
NEDOプロジェクト「未利用熱エネルギーの革新的活用技術研究開発」(2015～2022年度)などにより
「一重効用ダブルリフト吸収冷凍機」を開発。

今までは捨てられていた低温度域の廃熱も回収し、従来機比で約2倍の廃熱エネルギーを
冷房向けに活用できる仕組みをコンパクトなボディーで実現、2017年4月に「DXSシリーズ」として製品化しました。

海外の複数の国で採用されるなど、カーボンニュートラル時代を見据えた
低温未利用熱の活用手段として期待されています。



脱炭素社会実現に向けた 省エネルギー技術の研究開発・社会実装促進プログラム

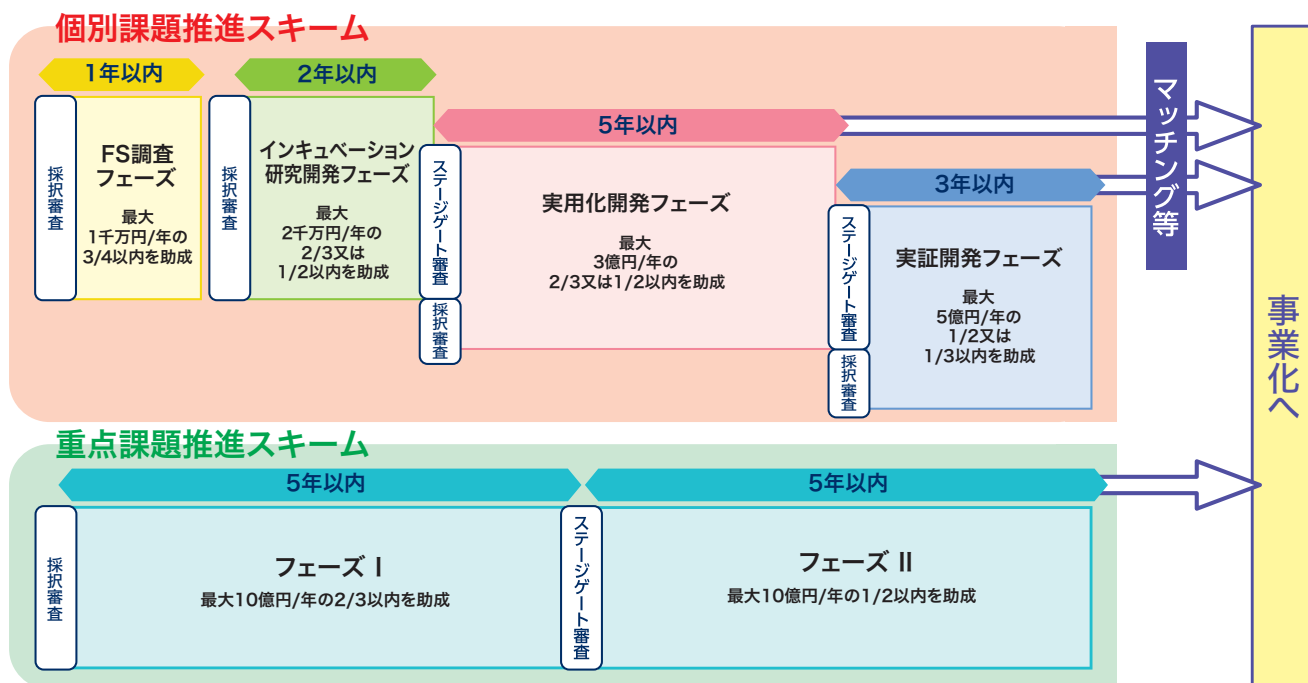
事業目的

脱炭素社会を実現しつつ、産業競争力を強化するためには、技術開発だけでなく、その技術の社会実装の促進も必要不可欠です。本事業では、革新的な省エネルギー技術の開発と共に、社会実装に向けた取り組みを支援します。

事業概要

「省エネルギー技術戦略」に掲げる「重要技術」に係るテーマを中心に、高い省エネルギー効果*が見込める技術のシーズ発掘から事業化までを一貫して支援する、テーマ公募型事業です(企業必須、大学単独の提案は不可)。なお、本プログラムは「戦略的省エネルギー技術革新プログラム」の後継プログラムです。

*2040年度時点に日本国内において原油換算10万KL/年以上のエネルギー消費量の削減



個別課題推進スキーム					重点課題推進スキーム
	FS調査	インキュベーション研究開発	実用化開発	実証開発	
概要	シーズの事業性検討、開発シナリオ策定や省エネルギー効果の検討等を行うための調査。次フェーズ以降に応募するための事前検討。	技術シーズを活用し、開発・導入シナリオの策定等を行う。実用化開発・実証開発の事前研究。	保有している技術・ノウハウ等をベースとした応用技術開発。本開発終了後3年以内に製品化を目指す。	実証データを取得するなど、事業化を阻害している要因を克服し、本開発終了後、2年以内に製品化を目指す。	2050年を見据え、業界の共通課題及び異業種に跨る課題の解決に繋げる革新的な技術開発等、複数の事業者が連携・協力して取り組むべきテーマを設定し、技術開発を行う。

相談受付中:脱炭素社会を見据えた技術開発をスタートしませんか?

本公募の受付に関する質問の他、技術開発内容が本事業の趣旨に合致するか、省エネルギー効果量の算定方法等のご相談等も受付中です。お気軽にお声がけいただくか、下記よりお問い合わせください。

プロジェクト実施期間:2021~2035年度
2024年度予算:60.0億円

問い合わせ先:国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構 省エネルギー部
担当者:「脱炭素社会実現に向けた省エネルギー技術の研究開発・社会実装促進プログラム」事務局
E-MAIL:shouene@nedo.go.jp

詳細情報のご案内

NEDOのウェブサイトや、SNSでは、公募情報やニュースリリースをはじめとした最新情報を掲載しています。

省エネルギー事業

省エネルギー事業の個別情報は、NEDOウェブサイトの「事業紹介」>「エネルギー」>「省エネルギー」よりご覧いただけます。



省エネルギー技術戦略

省エネルギー技術戦略は、NEDOウェブサイトの「刊行物・資料」>「報告書」>「ロードマップ」よりご覧いただけます。



中小企業向け支援事業

中小企業向けの公募情報等を掲載しています。



ニュースリリース

最新のニュースリリースを掲載しています。



公募情報

省エネルギー事業に関する公募情報は、NEDOウェブサイトの実施者募集（公募）タブ>公募情報 検索画面>「省エネルギー」よりご覧いただけます。



ニュースリリースや公募情報、イベント情報の各種最新情報をリアルタイムで発信しています。



NEDO Channel (公式 Youtube)

動画で省エネルギー技術を紹介しています。



国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 省エネルギー部
〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1310 ミューザ川崎セントラルタワー
Tel 044-520-5180 Fax 044-520-5186
<https://www.nedo.go.jp>